不定期刊行　　第 526 号　2014.11.18

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

飯田高校山岳班　秋山山行（中央アルプス・三の沢岳 2847m）

以下、飯田高校、杉山昭久先生の寄稿です。

9 月 26 日～27 日にかけ、八ヶ岳（硫黄～天狗・西天狗）での南信新人登山大会を終えたばかりの 10 月 4 日(土)、この日は高松塾（飯田高校の土曜補習）の日であったが、1 年生は卒業生の講話ということだったのでそれを回避。当初、この日の予定は、噴火した御岳山・継子岳へ行く計画でいたが、もし、噴火が 1 週間ずれていればと思うと、ぞっとした。（噴火の瞬間を、丁度西天狗の山頂で見たわけであるが、その時は、冗談で噴火だと言ったが、それが本当にそうであったのを,後で知ったわけである・・・かわらばん 523 号参照）

早朝、5 時に学校を出発。5 時 30 分、バスの乗り場である菅の台に到着。この時間で、すでに駐車場は満車。加え、バス待ちの登山客が２００ｍもの列を作って並んでいる。

乗用車は 1 ㎞先の駐車場へ入れろと言う。なんと言うことか。しかし、事前にタクシーを予約しておいた我が山岳班部隊は、待っていたタクシー会社所有のすぐ近くの専用駐車場に置いて行けばとタクシーの運転手さんに言われ、車を置き、タクシーにて直ぐ出発。あの状態でもしタクシー予約無しで、バスを待っていたらと思うと、とてもラッキーでありました。タクシーで約 40 分。ゴンドラの発着地であるしらび平着。ゴンドラの整理券をもらう。約 40 分待ち。中央アルプス（西駒ヶ岳）と言えば、かつて飯田・下伊那及び上伊那地方の中学生の集団登山の定番だった山である。当時は、伊勢滝、北御所、中御所、内の萱コースと、多くのコースを経て、西駒に登ったものであった。伊那側の内の萱から将棋の頭を経て登るコースは、知っての通り、新田次郎の「聖職の碑」に書かれた過去の悲惨な歴史を物語る登山コース。

時代の流れからか、昨今、我々もそうではあるが、下伊那地区のほとんどがゴンドラを利用して西駒への登山をする学校が増加。それすらもやめ、他の山に変更、あるいは、集団登山をもやめてしまう時代になってしまった。（上伊那地区の中学校の一部は継続して西駒登山を実施）これも議論になるところである。

紅葉は、ゴンドラの中間から千畳敷あたりまでが盛り。７：３０出発。極楽平から稜線へ。天気は最高。富士山をはじめ、夏歩いた南アルプス全山、北には槍・穂高。西へ目をやれば、1 週間前に噴火した御岳山が噴煙をあげ、くっきりと見ることが出来る。風向きが北寄りだったため、硫化水素の臭いが、ここ極楽平の稜線まで臭ってきていた。８：００、宝剣をバックに皆で写真を撮り、稜線分岐より三の沢岳に向かう。三の沢は中央アルプスの峰々から外れている独立峰。登山者もごく少数で、穴場である。分岐からはどっしりとその山容を見ることが出来る。

途中、県外からのツアーの年寄りの団体を追い越す。稜線当たりのダケカンバはすでに葉を落としている。９：３０、頂上。そこからは宝剣・天狗岩、前岳から西駒、南に目を転じれば、檜尾からの稜線のその先にどんと空木岳がかまえている。さらに、南駒、越百、摺古木までもくっきりと見ることが出来た。山頂には2人の山ガール山ボーイがいるのみで、今日の駐車場の賑わいはどこへやらの世界である。360°の素晴らしい展望を我が山岳班が独占した。

お茶を沸かして楽しんだり、展望を楽しんだり、1 時間ほどを費やし、頂上を後にした。山頂を一気に下り、最後の登り返し、山頂から1時間ほどで分岐へ。班員の中に高所が苦手だというメンバーがいるのと、全員が1年生ということを考えると、このまま極楽平経由で下りるか、それとも、宝剣の岩場を超え、本来の西駒コースを使って下りるか。リスクは当然、宝剣越えにあるわけであるが、生徒の宝剣岳の頂上を踏みたいとの皆の意見を尊重し、宝剣越えルートを選択した。4 年前に生徒を連れて三の沢をやった時も、宝剣を超え下った経緯はあった。

慎重に生徒に指示をしながら,最初のやせ尾根を突破。落ちれば大けがでは済まされない。最近、かけ変えたのか、真新しい鎖が随所にかかっている。宝剣の最低鞍部への７～８ｍの垂直の壁は、生徒にとって緊張の場面だったかもしれない。それなりに、全員無事、壁を降りる。さあ、宝剣山頂への最後の岩場。反対側から、明らかにこの岩場を超えるのは初めてと思われるグループや、カップル、若い女性だけの登山者が、鈴なりに超えてくる。山頂は狭い。多くの登山者で、大変な状況であった。事故だって起きかねない。岩場ピークで生徒の記念写真を何とか撮る。混み合っているので、早々にピークを離れ、ピーク直下の岩場をトラバース。木曽側は絶壁。ここも緊張する場所だ。事故が起きれば、顧問の首がとぶことになる。トラバってようやく安全な場所に。学生時代にこの岩の頂上に立ったことのある「天狗岩」がそびえる。今も天狗には、登ることは可能なのだろうか。

本ルートからの天狗山荘周辺や、西駒方面は多くの登山者でごったがえしていた。ここから千畳敷方面を見下ろせば、見事な紅葉を望むことが出来た。両側、赤・黄に染まるルートを下る者、今から登ってくる者。数多くの登山者のラッシュである。

帰りのゴンドラも、とんでもない位混み合っているだろし、それを思うとついつい猛ダッシュでゴンドラ乗り場まで急ぐが、混雑の中、思うように下れない。1 時間弱で到着。直ぐ整理券をもらいに行くが、それでも1時間待ち。(ＰＭ1 時 30 分時点で)ゴンドラには、多くの登山者、観光客がこの時間でも満席で登ってくる。2 時 30 分、我々が下る時間がきた時点で整理券をもらった人たちは、2 時間待ちというアナウンスが流れる。これから、さらに待ち時間が延びると思われた。がしかし、とにかく、天候に恵まれたことと、御岳山の登山禁止の影響からか、未だ、多くの人がどんどんと登ってくる。

ずっと晴れていた天候も、この時間になって、下界はもはや雲に覆われ出した。ゴンドラは、ガスの中を下る。しらび平駅では、これから千畳敷へ向かう人たちが長蛇の列で並んでいた。上は晴れていると伝えたかったが、それもせず、予約電話をして待っていてくれたタクシーに乗り込んだ。

御岳山行を、三の沢岳に変更したが、噴煙を出す御岳山のその姿を三の沢山頂から見るにつけ、安堵の気持ちと、未だ発見にいたらず頂上付近にいるだろう登山者のこと、家族のことを思うと、複雑な思いに駆られた。そんな一日でした。（杉山　記）